

しおさい

症 例 概 要 利用者氏名：F・M様（60代・男性）
利用期間：平成28年5月～現在 訪問リハ、通所を利用。
病名：左視床出血（平成27年12月上旬発症）、右片麻痺、短下肢装具使用。軽度の換語困難あり。
経過：H27年12月、左視床出血発症。発症当初は高次脳障害のため指示も入らず、車椅子生活がゴールと思われたとの事。N病院退院時には何とか歩行できる状態でしたが、歩行不安定の為、転倒も多く、家で一人では過ごせない状態だったため、まずは自宅での生活が安全に出来る様にと、週1回の訪問リハビリと週2回のデイケアを開始。N温泉病院から自宅退院となり、平成28年5月よりしおさい通所、しおさいの訪問リハビリを御利用中。

内 容

リハビリ当初、F・Mさんは消極的だったため、ご自身のニーズを取り入れるよう、妻、セラピスト、ナース、介護職員、ケアマネージャーで話し合い、神奈川県Y町にご長男さんが立てた新居に行く事を目標に決めました。ご自宅は坂道、階段があり、訪問リハビリでは屋外歩行、通所リハビリでは耐久性向上を目的に行いました。

毎週行われる訪問リハビリでは町中にある坂道、階段を練習し、徐々に登れる階段、坂道が増えていき、奥様の休みの日にはクリアした場所を一緒に歩くなど、どんどん自信を深めていきました。また、通所では通所職員の励まし、見守りでレクリエーション以外の時間も自主トレーニングに励む様になり、御利用開始から1年を経過した頃、念願だった神奈川県Y町にある長男さんの新居へ遊びに行く計画が浮上しました。

Y町も坂が多い町との事で、不安だったT字杖での歩行も息子夫婦、お孫さんに良いところを見せるように必死に頑張り、当日は長男さんの家族に回復した姿を見せた後、お孫さんにつがれたビールを嬉しそうに飲んだそうです。また、奥様より長男さんの家に遊びに行ってから自宅の周囲を歩いたり更に自主トレーニングに励んでいるとの事です。

目標を達成したため、新しい楽しみを見つけて欲しいという奥様の希望もあり、次にF・Mさんが発症前に大好きだったギターを弾くということを目指して設定いたしました。

F・Mさんは発症前、仕事が終わると毎日のようにギターを練習しており、弟さんによるとかなりの腕前だったそうです。そこで同じくギターが趣味の弟さんに協力してもらい、部屋に眠っていたギターを丁寧に調節していただきました。

しかし最初は座っているのが辛い、右不全麻痺もあるから…など注意散漫で、ご自身はなかなかやる気になりませんでしたが、それでもあきらめずに訪問リハビリとデイケアの職員がご自宅に伺った際に、一緒にギターを弾くようにしているうちに、動きにくい右手でピックをもち、ギターを弾くようになってきました。

「聴かせて下さい」と言うと「恥ずかしいよ。」と言い断っていましたが、今回初めて我々の前で披露してくれました。今では「今度はもっと大勢の前で演奏するぞ」とますます張り切っています。発症当初はご自身もご家族も、ネガティブになってしまった心が、目標や楽しみをみつけたことにより、ポジティブな心となり、F・Mさんらしい人生を取り戻すことが出来ました。また目標も達成して終わることなく、更なる目標への挑戦をし、この約3年間の目標ごとに私たち職員が身体的サポートだけではなく、気持ちのサポートを行い、目標達成へのお手伝いをさせて頂くことが出来た症例となりました。